

水郷いたこ大使お祝いメッセージ



海老沢勝二 さん
＜元NHK会長＞
＜潮来市名誉市民＞

な時代にも耐えられるよう活力ある住みよい土地柄を目指し、お互い協力し合いながら人材の育成や創造的な開発に、今こそ一層努力しなければなりません。小生も微力ですが「愛」するふるさとの発

展のために協力させていただきま
す。
潮来市の益々のご発展と市民の
皆さんのご多幸を心からお祈りし
ています。

水の郷潮来に生まれ、育ち、成長したことを大いに誇りと思っております。ここにあらためて、わがふるさと潮来の皆さんと一緒に潮来市制施行20周年をお祝いすることが叶い、心から感謝申し上げます。申すまでもなく、潮来は豊かな自然と歴史文化、それに多才な先人・先輩に恵まれています。そして全国的にその名が知られた観光地として、美味しい米や川魚など品質のすぐれた農水産物の産地であります。

こうした中で時代の変化と共に少子高齢化が進む一方、予測していなかった新型コロナ禍に苦しみ、悩まされました。現在はいくらか収束に向かい、新しい局面、転換期に入ったように見えます。しかし、世の中は歴史的に見てもいつの時代も何が起るか分からない「一寸先は闇」ともいわれています。私共はこのコロナ禍で多くの教訓を学びました。常に最悪の事態を考え、「油断大敵・火の用心」の心構えを忘れないことが肝要だと思います。そして、どん



渡辺 教子 さん
＜ブランドプロデューサー＞
＜大学教授＞

潮来市市制施行20周年本当に素晴らしいですね、おめでとうございます。

私は水郷いたこ大使、いばらき大使として、潮来市をいつも誇りに思っています。

私の父は潮来町生まれ、母は牛堀町生まれです。

私はまさに合併前の二つの町のDNAを受け継いで潮来市築地で生まれました。潮来第一中学校から、利根川を渡って千葉県の佐原高校へ通い、そして東京の津田塾大学に進学する18歳までの潮来での暮らしは、私の根幹を作ってくれました。

潮来市は、高速バスの普及により、1時間程で都心と往来できる利便さです。豊かな自然を堪能し

つつ、都会の便利な生活を享受できます。私は現在東京で大学教授の仕事をしつつ、週末やまとまった休みはなるべく潮来で過ごし、地元の家や友人たちと充実した時間を過ごしています。極早場米一番星を誇る豊かな穀倉地帯、鹿島灘や霞ヶ浦からもたらされる恵みの幸を堪能できる潮来は、暮らしやすい街です。特に「道の駅いたこ」は大好きな場所、東京からの友人たちを案内すると皆大喜びです。

そして私が誇りに思うのは潮来市立図書館。図書館はその地域の文化のバロメーターです。子供向けの蔵書も充実しており、私個人も父の蔵書を寄贈させていただきました。

潮来市市制施行20周年を、潮来市、市民の皆様、私のように故郷を愛おしく思う潮来とつながりのある皆様、全ての皆様とお祝いしたいですね。

潮来市のますますの発展と輝ける未来をご祈念します。



栗原 徹 さん
＜ラグビー選手＞

この度は潮来市市制施行20周年をお迎えになられたこと、誠にありがとうございます。

潮来での思い出と言えば、水郷潮来あやめ祭り・潮来祇園祭・サッカーに魚釣り。

自然豊かで空気もお水も美味し
い。人は温かく本当に心休まる故郷です。
時間が取れば、魚釣りにでも帰りたいと常々思っております。
この20年の間には東日本大震災で、多くの潮来市民の皆様も被災し大変な思いをされました。現在はコロナ禍で、あやめ祭りや祇園祭も縮小・中止となつてしまつています。一日でも早くあの素敵な日常が戻ってくることを心から願っておりますし、この先50年100年と潮来市が未来永劫発展していくことを心から祈念しております。



大津 忠男 さん
＜陶芸家＞

市制20周年おめでとうございます。

自然が豊か、川藻がたどよう水の郷。この上ない良き環境に恵まれた素晴らしい地の潮来であると思っております。そんな中での市制20周年めでたい限りです。

たまの帰省でも会える友も少なくなり、淋しさをひとしお感じますが、幼き日の思い出がまだそこに生きています。生涯の地の恵みでしょうか。
故郷を離れ、老いどれのいま、すばらしい潮来に生まれ育れた喜びをかみしめています。水郷のもろもろのDNAが、しかと宿っています。
環境を守り、自然との共存を大切に、益々の貴市発展を祈らずにいられます。
フレエフレエ 潮来！



戸恒喜代美 さん
＜水墨画家＞

潮来市市制施行20周年おめでとうございます。

私にとって、潮来のふるさとの四季の美しさはいつも心の支えになっております。
水郷潮来の自然と景観は素晴らしいものです。
雄大な利根川の流れのように、市民の皆様との絶え間ない発展とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



眞中 秀幸 さん
＜イタリアンシェフ＞

潮来市合併20周年おめでとうございます。
衷心お喜び申し上げます。関係各位の常日頃のご尽力に敬意を表するとともに、潮来市、益々のご発展と合わせて、市民の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



橋 幸夫 さん
＜歌手＞

この度は、潮来市市制20周年誠におめでとうございます。

例えば、私と「潮来」という文字とのご縁を改めて思い返しますと、まだ私が高校2年生で、学校に通いながらの芸能デビューでした。右も左も分からぬまま、ただ歌が大好きな我が家の家族、その中でも母と4番目の兄に勧められ、無理やり連れて行かれた遠藤実歌謡教室で、ただの高校生から3年後にはビクターのオーディションで吉田学校にご縁を頂き、その半年後には茨城県潮来がテーマの股旅歌謡でデビューとなり、それから潮来とのご縁は話せば長くなりますので省略しますが、長い芸能生活も昨年で60周年ともなりました。その間数々の歌のなかでも、歌手にとって最初の歌が生涯つきまとうと言う私にとって大切な歌が「潮来笠」です。作詞家の恩師佐伯孝夫先生も潮来を始め大利根川が大好きで、月に何度か大利根界隈の、特に水郷近辺には何日も泊りがけで詞を書いた



本條秀太郎 さん
＜三味線演奏家・作曲家＞

潮来市市制施行20周年心よりお祝い申し上げます。

水郷いたこ大使の大役を長く拝命いたしており、身にあまる光栄に存じます。

水郷潮来に生を受け、自然、人情、何よりも同級生の仲間たちと野山をかけまわり、常陸利根川で泳いだことなど、言い尽くせない沢山の思い出、出来事がありました。水の流れや野山の景色と同様にしっかりと私の細胞に刷り込まれております。故郷を感じられることは幸せなことで感謝いたしております。

過去に潮来の観光地としての取り組みの一環として、数多くのムーブメントを経験させていただきました。1971年に木造屋形船を造船

し「屋形船・和舟」の必要性を提案。「素我熊野奉納舞田植踊」「潮来座」「風流まつり」など試みることができました。まだまだふるさとの景色と共存し、何かを生み出せる予感がします。

2008年第23回国民文化祭の折、水戸市において開会式・オーブニングフェスティバルの開会曲の作曲、日本舞踊の祭典「常陸踏歌」の作曲をさせていただきました。潮来市出身だからこのような機会を頂けたのだと、嬉しく感謝の気持ちでいっぱいでした。また、潮来市の中学校講堂での「伝統芸能の祭典」において、貴重な芸能の展示が出来たことは、先人たちの営みを感じ取ることが出来る「ふるさと再発見」として、潮来の芸能のアーカイブを作れたことは一番の喜びでした。

まだまだ「のびしろ」のある潮来市の観光に一層の目を向けていかなくてはと自分自身を鼓舞致しております。生き生きとした爽やかで元気ある未来、子ども達に残せる潮来市を目指しましょう。おめでとうございます。



村田 基 さん
＜プロ釣り師＞

のどかな街、水郷潮来が市になって早20年。東日本大震災から10年が経ち、液状化により壊滅的な被害を受けた日の出地区も、完全復活を成し遂げ、すばらしい住宅街に蘇りました。

今後は、東関東自動車道の開通により銚田市とつながり、水戸にある茨城県庁まで、今までの約半分の時間で人の行き来ができる環境になっていき、潮来駅からインターチェンジに続く道も2車線化する工事が始まり、夕方の渋滞緩和。河川では前川上流の水路の整備や川幅の拡幅がされ、観光地としての水郷潮来の完全復活。

これから5年先10年先の未来がどの様になっていくのか、良き潮来市へのステップアップ（発展）を期待したい。



大谷 徹奨 さん
＜薬師寺執事長＞

潮来市市制施行20周年おめでとうございます。私が潮来市で生活した期間は8年と短いものでしたが、ふるさとを持たない私には、まさに潮来市がふるさとなりま

した。ですから、潮来市に地震情報が出たり、天候が悪い時などは、お世話になった方々をはじめ、地域の皆様の安全、安心を真っ先に気にしております。現在は潮来市から遠く離れた奈良におりますが、常に潮来市のことを思い生活しております。今後、潮来市の皆様が地域と共にご発展なされますことを、心よりお祈り申し上げます。合掌



香取 綾子 さん
ペンネーム カトリヌあやこ
＜漫画家＞
＜イラストレーター＞

潮来市市制施行20周年、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。清らかな水と緑に彩られ、江戸時代から水運の要所として栄えてきた潮来の街。いつも5月になると、色とりどりに咲き誇るあやめの花々の美しい光景が目に見えます。あやめの花言葉は「良い便り」「希望」「信じるものの幸福」。これからも希望あふれるこの地域に、幾久しく良い便りが届きますように。そして益々のご発展を遂げられることをお祈り申し上げます。

大使のご紹介



柳町 光男 さん
＜映画監督＞

昭和51年「ゴッド・スピード・ユー! BLACK ENP EOR」で映画作家としてスタート。自ら設立した「プロダクション群狼」作品として自主公開上映で大きな話題と評判をとり、全国公開された。代表作「さらば愛しき大地」「火まつり」など。